

# 民主化闘争情報

No. 969

2018年2月2日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

昨年JR東労組は、「実質的にスト権を確立した」等とは言いつつも、「いつでもたたかえる体制」と言い換え、カムフラージュすることに徹していた。しかし、今年になって一転、JR東労組は堂々と『1年前の‘スト権確立’』を明言し、前面に押し出すという‘変化’を見せている。JR東労組東京地本の宮澤委員長は、機関紙新年号(第367号1月1日発行)の中で、「2017春闘でスト権を確立していたこと」を明言し、昨年確立したスト権をもって2018春闘も闘う旨を表明している。また、旬刊ACCESS「2018新春特集号(下巻)第532~534号」の主要単組トップインタビュー記事で、JR東労組本部の吉川委員長も同内容を述べているのだ。

## 隠すことは、もうやめたのですね?!

~JR東労組は、JR発足30年という節目の年に、  
国民・利用者・組合員を欺き、「スト権を確立」していた!~

2017春闘に向けて、JR東労組は「全組合員によるスト権確立の意思確認の一票投票」を行い、結果として82.3%の賛成を得たとしている。そして、JR東労組の「業務部速報NO.74(2017年2月8日付)」では、これを「実質的スト権確立」と報じ、さらには、昨年2月の臨時大会では代議員による投票を行い、賛成多数で「実質的スト権確立を確たるものとし、いつでもたたかえる体制を構築してきた」と表現した。またJR東労組は、昨年6月の「第33回定期大会」の議案書の中で、「格差ベアに完全終止符を打つと言う目的を明確にし、ストライキ権の確立や行使を自立化させず」などという、関係者をいっそう‘煙に巻く’表現を用いていた。なお、既報(民主化闘争情報No.953)のとおり、昨年4月に産経新聞が朝刊トップでJR東労組のスト権確立を報じた際には、JR東労組は取材に対し「春闘に関するスト権は確立していない」なる回答をしたと報じられている。JR発足30年の節目にスト権を確立させる動きについて、マスコミや世論に厳しい目を向けられたので、内外を欺き、誤魔化してきたものと推測されるが、「もう大丈夫!」とでも判断したのか。よく恥ずかしげ無く、都合よくコロコロと変わるものだ。

## ずーっと「スト権」を確立した状態のまま!

一旦確立してしまえば、今後は中央闘争委員会の指令があれば、いつでもスト可能!?

上述の東京地本の機関紙新年号では、「昨年17春闘で結成30年目にして全組合員による批准一票投票で格差ベアに限定したスト権を確立しました。(中略)格差ベアに反対し完全終止符を打つためスト権を背景にして全組合員でたたかい抜いてきました。(中略)経営側が18春闘で格差ベアを永久的に根絶しない回答をした場合は、中央闘争委員会の指令に基づき、東京地本は17春闘で確立した「ストライキ権」を背景にしてあらゆる手段を講じて全組合員が格差ベアの永久的根絶をめざし立ち上っていく」との宮澤委員長挨拶を掲載。また、上述の「旬刊ACCESS」では、吉川委員長が「会社が18春闘以降も格差ベアの可能性を残すとすれば、我々は昨年2月の臨大方針『いつでもたたかえる体制』を踏まえて速やかに『スト権』を含む戦術行使を準備することになります」と述べている。それにしても、『1年前に確立した「スト権」を、目的が果たされていないことを理由に、「確立したまま」で今後も使い回す』という、都合の良い解釈・手法は、世の中で理解が得られるものなのか。組合員はよく理解しているのだろうか。

## 良識ある組合員のみなさん、目を覚まし、立ちあがろう!!

年が明けていよいよ春闘がスタートした。組合員に対して、「闘え」と呪文のように繰り返し、スト権確立への半強制的な「賛成」投票を行わせて振り回しながらも、実はやる気の無い「ポーズ」だけのスト権確立であれば、組合員が気の毒だ。もっと他にやることのあるのではないか。